

## 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

### 報告書資料 一般 - 64

|           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 学校名・団体名   | 新城市立鳳来寺小学校              |
| コ ー ス     | 学校支援                    |
| 活動・研究のテーマ | 学校・家庭・地域がつながり、協働した学校づくり |

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

本校は、4つの学校が統合してできた3年目のへき地の学校である。広い地域が合わさり、児童、保護者、地域の方も、他地域のことをあまり知らない。小学校のなくなった地域の人々は寂しく感じているが、新しい本校に足を運ぶ習慣や機会がまだあまりない。そこで、地域に出かけ、学区のよさを取り入れた学習や行事を行うことで、ふるさとを大切に育て、地域にも元気を届ける。また、地域の多くの方に学校を訪れてもらい、学校が核となり一つの地域としての一体感をつくる。そして、地域の豊かな教育環境を生かしたり、地域にないものは補ったりして、学校・家庭・地域が協働した学校づくりをすすめた。

#### ○地域のよさを再発見し、地域に笑顔をお届けする「ふるさと学習」の推進

学区を流れる寒狭川、海老川を生かした体験活動としてアマゴ釣り体験（4月）、アユの放流（5月）、泳ぐ会（8月）等や四谷千枚田での稲作（4月～11月）及び保存への協力、鳳来寺山に学ぶ（4月～12月）体験として鳳来寺山自然科学博物館、もみじまつりへの参画等を行い、それを守り、受け継いでいる地域の人々と活動を共にし、ふるさとへの思いを受け継ぎ、ふるさとを大切に育ててきた。

3年目に入り、学校全体と各学年で取り組むことに分け、学習内容の精選を図ることができた。各学年は、総合的な学習の時間を中心とした学びを「ふるさと学習」として、他教科とも関連をはかり、教科横断的に取り組んだ。1・2年生は、学区全体を知ることを基本とした。そして、3年生は旧海老小学校区（梅作り等）、4年生は旧鳳来寺小学校区（鳳来寺山等）、5年生は旧連谷小学校区（四谷千枚田等）、6年生は旧鳳来西小学校区として、年間計画を整理することができた。また、ただ活動や行事に参加するだけでなく、地域の人々の思いをとらえ、切実感をもって、地域の人といっしょになって地域づくりに参画する活動へと変わった。

新城市の鳳来北西部の四谷には、棚田百選に選ばれた「四谷の千枚田」がある。旧連谷小学校で毎年そこで田を借り、地域の方に教わりながら米作りを行っていた。鳳来寺小学校になって、5年生が担当した。米作りを体験する中で、千枚田そのものへと関心を高め、米作りに限らず、ビオトープでの生き物観察や川遊びなどの体験を通して、千枚田の魅力を発見していった。千枚田での活動が一段落したところで、活動を振り返ると、自分たちが千枚田についてあまり知らないことに気づき、課題をもって調べることをしていった。千枚田保存会の人々がビオトープを意図的につくり、千枚田を守るために努力をしていることがわかった。また、千枚田についての調べを進めていく中で、児童は明治37年の長雨により千枚田で大きな被害がでた「山崩れ」にいきついた。「山崩れ」について、千枚田の米作りの講師にお願いすると、被害にあわれた人の子孫の方に直接お話を聞けるようにしてくれた。その後の児童たちの話し合いから、「死者や田が崩れるなどの大きな被害が出たのにそこから大変な思いで復興させたのは、千枚田を守ろうとする地域の人々の思いがとても大きかったからだ。」という、今も受け継がれる地域の人々の情熱を受け止めることに至った。そして、地域に住み、今年千枚田で楽しみ、活動した私たちもこの「地域の宝」を受け継ぎ、大切にしたいという思いを児童たちはもつことができた。児童たちは、その思いを抱くことで、地域の人々が大切にしている千枚田の美しさ、珍しさ等をもっと伝えたいと、地域の人々や観光に来る人々にPRする活動（パンフレット作り、インターネット配信等）につながっていった。

その他の学年も、4年生はもみじまつりの企画から参画し、6年生は地域自治区の行政や区長等にまち

づくりの提案を行い、地域に対しての思いを深めるだけでなく、地域の人々と思いを共有することまででき、子どもが地域と学校、地域と地域をつなぐ役割を果たすまでに至った。

#### ○学校を核として、地域の一体感を高め、地域と協働する学校づくり

地域の方を講師として、伝承教室（6月）、干し柿づくり（11月）、五平餅づくり（2月） 鳳来寺田楽（11月）等を行った。また、地域の方と一緒に楽しむ機会として、お茶摘み（5月）、新茶を味わう会（6月）、ふるさと発表会（2月）等を行った。

学校全体の行事として、地域に残る文化を体験し、受け継いでいく活動を進めた。そして、地域の方と一緒に、お茶摘みや新茶を味わうことで、さらに交流を深める機会とした。また、地域へ子どもからの招待状を送り、地域の人々が子どもの姿を見るために気軽に来ていただけるような環境を整えていった。そして、子どもが学校で元気に過ごす姿を見せることで、来校した方は子どもの姿から元気をもらえ、学校へ来るのが楽しみに感じるようになってきた。学校の玄関から入ったすぐの小ホールには、「ギャラリーぶっぼうそう」をつくり、地域の方の作品を展示し、児童が自由に見られ、図工科の鑑賞の一環として感想を書き、地域に届けている。このような取り組みによって、学芸会では立ち見の人が出てしまい、初めて満員状態となった。地域とのつながりが深まった結果と言える。

#### ○地域等の専門的な人材を生かした豊かな学びの創造

クラブ活動（6～2月 5回）では、地域の方が講師として、料理、木工、運動等を行った。さらに、コンピュータ支援員が補助に入り、子どもがコンピュータにふれたり、教員が授業でタブレットを活用したりする機会がととも増えた。また、放課後にも課外クラブとして、希望者を中心にバドミントン、花遊び、七宝焼き、コンピュータ教室、ダンス教室等を月に各1回程度の活動を行った。専門的な知識や技能をもった講師によって、充実した学びの機会となった。毎回の活動に20～30人程度（全体の30%～50%）の子どもが参加し、さらに地域や保護者の人も共に学び、共に育てる機会となった。特に、ダンス教室については、学校の授業にも波及させ、運動会の組み立て体操にかわる目玉種目となっている。そして、そこで身につけたダンスを福祉施設への訪問（全学年が地区を分担して訪問している）や地域のお祭、敬老会等で披露している。

#### ○学校・地域・家庭が協働した子育てへ

学校までスクールバスで40分かけて通う子どもがいる。当然、都市部に出るためには、さらに1時間以上かかる。休日に地域の自然・歴史・文化・伝統行事等にふれることも大切であるが、学区の地域だけの力に頼るだけでは足りない。いろいろな選択できる豊かさの幅が広がるように、豊かな体験の場として、絵画作家による美術作品（絵画）の解説・鑑賞、絵画指導（11月）、動物飼育員による動物の解説やふれ合い（6、12月）を行った。動物園や美術館等でできる本物にふれる経験等を、学校で体験できるようにし、学習したことを生かした学びの充実につなげた。また、スクールバスを待つ時間が低学年は1時間以上あり、その時間を地域の方で見守り、生活習慣・ルールの習得、学びや遊びの充実を図った。そうすることで、学校だけでなく地域ぐるみで子育てを応援することにつながった。

新しい学習指導要領による教育課程が始まる中で、旧学区から引き継いできているものを教育課程の中ですべて続けていくことは難しい。そのため、「ふるさと学習」の核になること以外は、この学校の特色として放課後の活動の中で生かしていきたいと考えている。放課後の充実は、今後も力を入れていきたい。また、本校は、市の運営する児童クラブはなく、地域のボランティアによる共育施設「ぶっぼ～荘」がある。しかし、ボランティアの人材も当初より少なくなり、運営も大変になってきている。講師等による活動の時間にあてることで、ボランティアの負担の軽減にもつながっていく。学校と地域が協働して放課後を充実させることが、学習の基礎、豊かな学びを保障し、教育が充実することが子育ての充実にもつながり、学校と地域が将来存続していく可能性につながるのではないかと地域と共に考えている。

学校は「地域の心のふるさと」であり、本校の新しい校歌の歌詞にあるように「みんなが集まり」「みんなが学び」「みんなが羽ばたく」学校になるよう、学校・地域・保護者等が協働して進めていきたい。学校を中心とした新しい地域づくり「おらが学校」を進めていく。魅力的な学校づくりを進め、誰もが通いたい学校づくりへと発展させていきたい。そして、さらにこれらの活動が広まることで、地域と学校で協働して創り上げていく協働体になっていくと考えられる。